

サラヤ株式会社 御中

ウガンダにおける南スーダン難民支援事業

写真報告書

第3 四半期（2019年1月～3月）



2019年5月

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン



Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン

ウガンダにおける南スーダン難民支援事業： ウガンダ北西部における南スーダン難民の子どもへの保護と総合的な発達支援

セーブ・ザ・チルドレンは、南スーダン難民を受け入れているウガンダ北西部の難民居住区にて、2016年8月より支援活動を実施しています。2016年に始まった南スーダンにおける武力衝突以降、国外に逃れる難民が絶えず、今も80万人を超える南スーダン人が難民としてウガンダで避難生活を送っています。子どもたちは虐待やネグレクト、早婚などのリスクに晒されており、長引く避難生活の中でストレスを抱えている子どもたちも多くいます。また、居住区内での出産や育児に不安を抱える養育者も少なくなく、子どもたちの健やかな成長のために継続的な支援が求められています。セーブ・ザ・チルドレンは、これらのニーズを踏まえ、特に脆弱な状況に置かれた子どもへの個別支援、「こどもひろば」の運営、就学前教育や栄養支援活動といった、子どもの発達の包括的な支援を継続しています。以下にこれらの活動の様子を紹介します。



「こどもひろば」における合同スポーツ大会にて、子どもたちが綱引きで競い合う様子。各「こどもひろば」に通う子どもたちと、活動を率いるボランティアが団結し、この日のために練習を重ねてきました。避難生活が長引き娯楽の機会も限られる中、子どもたちにとって思い出深い日になっただけでなく、たくさんの保護者やコミュニティの人々が参加したことで、より多くの人々に「こどもひろば」の意義や活動について知ってもらうことができました。(2019年3月撮影)



12～17歳の子どもたちで構成されるピア・グループ活動にて、自分たちの村で見られる問題や、虐待や早婚、子どもたちに対する暴力への対処方法や予防策について話し合う様子。子どもたちによる、これらの問題に関するコミュニティへの啓発活動も行っています。また、国籍も部族も年齢も違う子どもたちが集う「こどもひろば」で平和的に共存していくためにどのような活動ができるのかを話し合い、実践しています。例えば、伝統的ダンスや音楽を通して、お互いを知り尊重しあう精神を育てています。(2019年3月撮影)



「母と子のためのスペース」にて、栄養ボランティアが母子に対し栄養指導を行う様子。セーブ・ザ・チルドレンの栄養カウンセラーや栄養ボランティアが、子どもたちの栄養状態の測定を行い、必要に応じて栄養指導を行っています。また、難民居住区では既存の保健施設から距離が離れているため、基礎的な保健サービスが受けられない妊婦や母子が多く存在します。そのため、保健センターの職員が月に1回「母と子のためのスペース」に赴き、妊婦や授乳中の母親と子どもたちに対して、健診やマラリアの治療、予防接種、栄養補助剤の処方などを行っています。これらの施設では、感染症の予防などのため、サラヤ株式会社様よりご寄付頂いた手指の消毒液を活用しています。(2019年3月撮影)



就学前教育プログラムに通う子どもたちのために、トウモロコシを挽いた粉をお湯で練ったおかゆが準備されていく様子。保護者から成る「こどもひろば」運営委員会の自主的な活動の一環として、保護者から少しずつ集めた給食費とトウモロコシの粉を活用して、日々子どもたちに給食を提供しています。給食の時間になると、子どもたちは教室から飛び出し、外遊びしていた子どもたちも走って手洗い場に向かい、石鹸を使用して手を洗います。給食の後は教室に戻り、それぞれのクラスが再開します。(2019年2月撮影)



『国際女性の日』にて、子どもたちが男女平等を訴える演劇を披露する様子。3月8日の『国際女性の日』に合わせ、それぞれの「こどもひろば」で女性と女の子の権利実現とジェンダー平等を推進するためのイベントを子どもたちと保護者を招いて実施しました。イベントでは、子どもたちによってテーマに沿った歌や演劇が披露されただけでなく、「女の子にも教育が必要な理由」や「家庭における女性の立場」などについて、保護者同士でも活発な議論がなされました。(2019年3月撮影)



コミュニティで活躍するケースワーカーの再研修の様子。脆弱な状況に置かれていたり、問題を抱えたりしている子どもたちへの個別支援の手続きの方法や、性的搾取や性的虐待の予防、子どもとのコミュニケーションの取り方について、これまでの活動における成果と課題を振り返りながら学びました。(2019年2月撮影)



2019年2月に着任した新しい駐在員とケースワーカー、「こどもひろば」ファシリテーター、就学前教育ボランティアによるミーティングの様子。これまでの活動の成果や学びを振り返り、今後の改善点などを話し合うとともに、2019年4月から開始する継続事業についての説明を実施しました。(2019年3月撮影)